

## 事業報告（平成4年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15014/00000413">https://doi.org/10.15014/00000413</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



## 事業報告（平成4年度）

### I. 展示関係

#### A. 収藏品展一覧

##### 1. 芸術資料館陳列室

###### 第1回 「春季展」

会 期 平成4年4月6日（月）～4月30日（木）

入場者 871人 21日間

###### 第2回 「新収藏品展」

会 期 平成4年6月1日（月）～6月23日（火）

入場者 870人 20日間

###### 第3回 「模写－中国の絵画」展

会 期 平成4年9月14日（月）～10月9日（金）

入場者 687人 18日間

###### 第4回 「秋季展」

会 期 平成4年11月9日（月）～12月4日（金）

入場者 1730人 22日間

###### 第5回 「卒業作品－陶磁器」展

会 期 平成5年1月18日（月）～2月17日（水）

入場者 574人 22日間

◎総計 4732人（103日開室）

##### 2. 京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（四条高倉）において、本館及び本学芸術教育振興協会が主催する収藏品展を開催した。

###### 「京都市立芸術大学芸術資料館収藏品展

御所の障壁画－土佐派絵画資料展」

会 期 平成4年10月3日（土）～10月27日（火）

入場者 1981人 22日間

## B. 収蔵品展展示概要

### 第1回 「春季展」

会 期 平成4年4月6日(月)～4月30日(木)

入場者 871人 21日間

昨年度から開催するようになった「春季展」は、本館所蔵資料の中から、分野に関わらず、近年公開されていないものを中心に作品を選び展示するものである。初めて公開されるものとしては1902年ローマ国際美術展にちなむ大型の石版ポスターがある。また、徳岡神泉の学生時代の作品である「晩秋」も無事改装が終わり、久々の学内展示となっている。他には土という素材に注目して辻晋堂の陶彫、六代清水六兵衛等の近代陶芸家の作品、そしてニューギニアセピック川流域の民族芸術である土器を展示してみた。新入学者に資料館の収蔵品の多様さを少しでも理解してもらえたのではないかと思う。

### 展 示 作 品

1. 徳岡神泉	作	晩秋	1916年(大正5)	日本画
2. 井上常太郎	作	雪	1918年(大正7)	〃
3. MICHAEL BRENNAND-WOOD	作	NOW VOYAGER	1990年	洋画
4. JIM DINE	作	Picabia I	1971年	版画
5. ローマ	:	1902年国際美術展ポスター	1902年	デザイン
6. 大禮記念京都大博覧會		ポスター	1928年(昭和3)	〃
7. 田中訥言	模	加茂祭草紙	江戸時代後期	模本
8. 付喪神		絵巻	江戸時代後期	〃
9. 辻晋堂	作	拾得	1960年(昭和35)	彫刻
10. 〃	作	目は口であり、口は目である	1965年(昭和40)	〃
11. 清水六和	作	青華稲穂花瓶	1928年(昭和3)	頃 陶磁器
12. 六代清水六兵衛	作	向日葵花瓶	1939年(昭和14)	〃
13. 〃		銹渤秋草花器	1962年(昭和37)	頃 〃
14. 〃		三彩緑渤四方花瓶	1963年(昭和38)	〃
15. 近藤悠三	作	薊染付壺	1967年(昭和42)	頃 〃
16. 新開寛山	作	群線花瓶	1962年(昭和37)	頃 〃
17. 森野嘉光	作	塩釉蓼花瓶	1971年(昭和46)	〃
18. 鈴木健司	作	萌樹	1962年(昭和37)	〃
19. 伊東翠壺	作	嘴瓶	1968年(昭和43)	〃
20. 森野泰明	作	青釉花器	1960年(昭和35)	〃
21. かまど(ニューギニアセピック川中流地方アイボム)			20世紀	民族資料
22. サゴヤシ澱粉貯蔵用壺(ニューギニアセピック川中流地方アイボム)			〃	〃
23. 鉢(ニューギニアセピック川中流地方カマンガヴィ)			〃	〃
24. 〃			〃	〃
25. 〃			〃	〃

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成4年6月1日(月)～6月23日(火)  
入場者 870人 20日間

恒例になった新収蔵品展示である。平成3年度に寄贈または購入により収蔵された作品を展示した。大きく絵画と陶磁器に分けられる内容となっている。近世の陶磁器作品の寄贈は、本学の陶磁器コレクションに厚みを加えてくれたし、本学の元教員でありながらその資料が本館にあまり遺されていない今尾景年や川村曼舟の作品が収蔵されたことは、学校にとっても大いに歓迎された。景年のものと共に絵画専門学校の卒業生であり教員でもあった日本画家入江波光の画稿が加えられ、今井憲一・木下章の写生と共に、本館の収集方針である写生や画稿の資料がさらに充実したものとなった。

展 示 作 品

1. 川村曼舟 「蚕邨暮靄」大正8年(1919) 軸、絹本着彩 移管(京都市) 日本画
2. 川村曼舟・西山翠嶂・川北霞峰  
「老龍瑞光・竹・梅」(三幅対)軸、絹本着彩 移管(京都市) 日本画
3. 今井憲一 「今井憲一写生資料」(11点のうち) 寄贈(今井柳子氏) 写 生
  1. 裸婦素描 紙・木炭
  2. " " "
  5. 「市」エスキース 紙本油彩 1949
  6. " " 1949
  8. スケッチブック(中国) 紙・鉛筆 1935
  11. " (エスキース) " 1969～70
4. 今尾景年 「葉桜白頭鳥図」 軸、紙本淡彩 寄贈(今尾景祥氏) 日本画
5. 今尾景年 「群仙図画稿」 軸、紙本墨画 寄贈(今尾景祥氏) 画 稿
6. 今尾景年 「花鳥図画稿」 軸、紙本墨画 寄贈(今尾景祥氏) 画 稿
7. 今尾景年 「双鶏図画稿」 軸、紙本墨画 寄贈(今尾景祥氏) 画 稿
8. 今尾景年 「今尾景年写生資料」(5点) 寄贈(今尾景祥氏) 写 生
  1. 写生帖(45号) 冊子
  2. 写生帖(60号) 冊子
  3. 写生帖 冊子
  4. 写生帖 冊子
  5. 写生帖 画帖
9. 今尾景年 「兄弟」 昭和54年(1979) 額、紙本着彩 寄贈(作者) 日本画
10. 斑 釉 徳 利 江戸時代後期 寄贈 陶磁器
11. 染付人物文瓢形瓶 江戸時代中期 伊万里焼 寄贈 陶磁器
12. 色絵花卉文角德利 江戸時代後期 伊万里焼 寄贈 陶磁器
13. 色絵団龍文蓋物 江戸時代後期 伊万里焼 寄贈 陶磁器
14. 色絵菊流水文德利 江戸時代後期 京焼 印銘「山池」 寄贈 陶磁器
15. 染付鳥文急須 幕末～明治時代 京焼 印銘「道八」 寄贈 陶磁器
16. 木下章「万葉の花 春・秋」昭和56年(1981) 額(2面)、紙本着彩 寄贈(作者) 日本画
17. 木下章「罌粟」 昭和52年(1977) 額、紙本着彩 寄贈(作者) 日本画
18. 木下章「草花生(春)」平成3年(1991) 卷子(2巻)、紙本着彩 寄贈(作者) 日本画
19. 木下章「木下章写生資料」(5点) 寄贈(作者) 日本画
  1. 椿<大神楽> 額、紙本着彩 1977
  2. 白牡丹 額、紙本着彩 1978
  3. まゆみ 額、紙本着彩 1986
  4. 鶏頭 額、紙本着彩 1987
  5. 極楽鳥花 額、紙本着彩 1991
20. 鈴木 治 「彌生」 平成2年(1990) 土 寄贈(作者) 陶磁器
21. 入江波光 「春雨画稿」 明治38年(1905) 扁額、紙本淡彩 購入 画稿
22. 入江波光 「北野の裏の梅画稿」明治44年(1911) 扁額、紙・墨・木炭 購入 画稿
23. 入江波光 「虹画稿」 大正13年(1903) 扁額、紙・墨・木炭 購入 画稿

### 第3回 「模写—中国の絵画」展

会 期 平成4年9月14日（月）～10月9日（金）

入場者 687人 18日間

本館は多数の模写本のコレクションを持っている。ほぼ毎年その展示を行ってきたが、今回は意外に展示される機会のなかった中国絵画の模本に焦点をあてて陳列した。田能村直入の絹本による山水図模本や明の上官伯達の模とされる五百羅漢図は久しく公開の場を持たなかった作品である。また狩野探幽や円山応挙の模本は質も高く、見応えのある作品として学外にも知られたものである。多くの方にはやや地味な印象があったようだが、極めて繊細に古画の趣を捉えている事に驚く来場者は少なくなかった。

#### 展 示 作 品

- |            |   |                      |             |
|------------|---|----------------------|-------------|
| 1. 呂紀      | 筆 | 梅花鴛鴦図                | 明代          |
| 模写者        |   | 戸田北遙                 | 大正末期        |
| 2. 伝 錢舜举   | 筆 | 牡丹図（対幅）              | 元代          |
| 模写者        |   | 右 林司馬／左 吉田友一         | 昭和18年（1943） |
| 3. 実旃      | 筆 | 松溪観瀑図                | 清代          |
| 模写者        |   | 田能村直入                | 明治7年（1874）  |
| 4. 沈宗騫     | 筆 | 倣古小幘合装山水図（8幅）        | 清代          |
| 模写者        |   | 田能村直入                | 明治初期        |
|            |   | 1 僧巨然雪卷意 梅咸熙古槐危石図    |             |
|            |   | 2 黄雀山樵松竹湖石図 董文敏高樹扶疎図 |             |
|            |   | 3 自家法江上嵐光図 李営邱雪意     |             |
|            |   | 4 横雀山人長松流泉図 陳方恵山図    |             |
|            |   | 5 梅道人小橋孤亭図 黄大癡上重泉図   |             |
|            |   | 6 個雲林剩水浅山図 董北苑春山屏風意  |             |
|            |   | 7 米元章雲山図 沈石田江閣看山図    |             |
|            |   | 8 劉西台清自軒図 李営邱寒林図     |             |
| 5. 伝 仇英    | 筆 | 桃李園金谷園図（2幅）          | 明代          |
| 模写者        |   | 円山応挙                 | 江戸後期        |
| 6. 伝 仇英    | 筆 | 臨唐人聴琴図               | 明代          |
| 模写者        |   | 入江波光                 | 明治末期        |
| 7. 子温日観    | 筆 | 葡萄図                  | 宋代          |
| 模写者        |   | 狩野探幽                 | 江戸前期        |
| 8. 王淵      | 筆 | 梨花図                  | 元代          |
| 模写者        |   | 大西 久章                | 大正末期        |
| 9. 辺文進     | 筆 | 鶉図                   | 明代          |
| 模写者        |   | 鐘ヶ江辰一                | 大正末期        |
| 10. 伝 仇英   |   | 採蓮図                  | 明代          |
| 模写者        |   | 麻田辨次                 | 大正末期        |
| 11. 狩野派諸家  | 模 | 宋元時代花鳥図巻（2巻）         |             |
| 模写者        |   | 林 司馬・松井和男            | 昭和9年（1934）  |
| 12. 宋元花鳥図巻 |   |                      |             |
| 模写者        |   | 不詳                   | 昭和初期        |
| 13. 燕喬達    | 筆 | 竹に群雀図                | 宋代          |
| 模写者        |   | 吉田友一                 | 昭和初期        |
| 14. 李公麟    | 筆 | 五百羅漢図                | 宋代          |
| 模写者        |   | 上官伯達                 | 明代          |
| 15. 趙仲穆    | 筆 | 八駿之図                 | 元代          |
| 模写者        |   | 橋本順忠                 | 大正末期        |

#### 第4回 「秋季展」

会 期 平成4年11月9日(月)～12月4日(金)

入場者 1730人 22日間

この展示では、秋季展として本館の収蔵品中から近現代の染織作品を選んだ。本学工芸科の教員を務めた作家の作品や、その教え子として美術大学・芸術大学に学んだ学生達の卒業作品を、併せて展示することは初めての試みである。染織作品は作品保護の面から、展示される機会が必ずしも多くないため、初めて展示される作品も多く、屏風の大作が並ぶ、見応えあるものとなっている。工芸科の設置そのものが戦後のことになるので、展示作品についても大部分が戦後のものとなるが、比較的制作時期の古いものを選んだ。稲垣稔次郎・小合友之介作品から学んだ型染や臘染の技法が受け継がれていることがよく分るが、一方で敏感に吸収された時代の性格のようなものもあがえよう。

#### 展 示 作 品

1. 佐野 猛夫	「緞帳図案」	1932	(美工卒業作品)
2. 黒田 暢	「芙蓉」	1948	(美専卒業作品)
3. 稲垣稔次郎	「三十三間堂」	1953	
4. 小合友之助	染色屏風「雨」	1953	
5. 中井 貞次	「風景の図染額」	1954	(美大卒業作品)
6. 安原 博三	「着物」	1955	(美大卒業作品)
7. 寺岡 岳	「屏風」	1956	(美大卒業作品)
8. 中島むつみ	「臘染屏風」	1957	(美大卒業作品)
9. 長艸 晃	「臘染：魚など」	1958	(美大卒業作品)
10. 樋上 千哲	「臘染六曲屏風」	1959	(美大卒業作品)
11. 平金 有一	「白の起伏」	1960	(美大卒業作品)
12. 佐野 猛夫	「凍雲」	1968	
13. 佐野 猛夫	「黒い潮」	1969	
14. 細見 久子	「型絵染孔雀文振袖」	1970	(芸大卒業作品)
15. 玉村 篤子	「縮緬地型染輪つなぎ文小袖」	1971	(芸大卒業作品)
16. 三浦 景生	「蓮文」	1981	
17. 来野 月乙	「遠野抄」	1988	

第5回 「卒業作品－陶磁器」展

会期 平成5年1月18日(月)～2月17日(水)

入場者 574人 22日間

毎年開催されるようになった卒業作品の展覧として、今回は美術大学、芸術大学の陶磁器卒業作品を選んだ。これまで戦後の卒業作品を展示する機会は少なく、それも工芸分野のものばかりをまとめて展示することはなかったので、収蔵後初めて展示されるものが大半である。歴史に培われた伝統技術に憧れて制作されるものあり。土の素材としての可能性を模索する作品あり。大きさも質感もバラエティーに富んだ展示となった。来場者には好評を得たが、会期の都合もあって、展示の内容に比例するだけの入室者が得られなかったことが残念であった。

展 示 作 品

1.	小山 喜平	「象嵌花瓶」	1954	芸大工芸科
2.	竹内 彰	「染付蠶螂紋大皿」	1954	芸大工芸科
3.	辻 京作	「刷毛目丸紋大皿」	1954	芸大工芸科
4.	平田 真一	「色絵八角箱」	1954	芸大工芸科
5.	近藤 豊	「染付木立文花瓶」	1955	芸大工芸科
6.	米沢 修	「花瓶」	1955	芸大工芸科
7.	加守田章二	「壺」	1956	芸大工芸科
8.	吉田 隆	「呉須赤絵草大皿」	1957	芸大工芸科
9.	森野 泰明	「花器」	1958	芸大工芸科
10.	江口 晃	「壺」	1960	芸大工芸科
11.	永沢 昇	「作品(花器)」	1961	芸大工芸科
12.	徳永 隆一	「作品(花器)」	1961	芸大工芸科
13.	橋本 力	「緑の闘魚(花器)」	1962	芸大工芸科
14.	皿谷 実	「角の花器(A)」	1964	芸大工芸科
15.	鈴木 爽司	「作品A(花器)」	1965	芸大工芸科
16.	前仲 邦哉	「黒い器」	1966	芸大工芸科
17.	末松 喜弘	「白磁壺」	1967	芸大工芸科
18.	秋野 等	「せいはいくじ 1」	1969	芸大工芸科
19.	石田 成昭	黒釉花器「双」	1970	芸大工芸科
20.	稲垣 寿春	「風呂屋で独りほくそ笑む私」	1973	芸大美術専攻科
21.	反橋 滋夫	「壺」	1975	芸大工芸科
22.	吉川 充	「盤」	1976	芸大美術専攻科
23.	柴田 良三	「壺」	1977	芸大美術専攻科
24.	山崎めぐみ	「大皿」	1978	芸大工芸科
25.	佐藤 恵吉	「盤空隙」	1979	芸大工芸科
26.	北村 純子	「刻む」	1980	芸大工芸科
27.	斎藤 裕	「作品 1(大鉢)」	1981	芸大工芸科
28.	堀尾 泰彦	「こぼれ落ちたものは」	1982	芸大工芸科
29.	長谷川直人	「在(界) I」	1983	芸大工芸科
30.	大原 千尋	「やまのは」	1984	芸大工芸科
31.	竹内 景子	「幻燈器 1」	1985	芸大工芸科

備考：美術専攻科＝大学卒業後さらに専門技能の研究を行う為、昭和28年から昭和57年まで美術学部に設けられた課程。

## C. 京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

御所の障壁画－土佐派絵画資料展」

会期 平成4年10月3日（土）～10月27日（火）

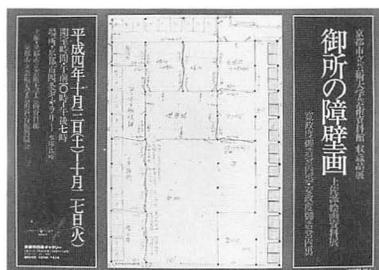
会場 京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）

入場者 1981人 22日間

京都市四条ギャラリーにおいて本館収蔵品展を行った。主催は本館及び本学芸術教育振興協会である。また展示に際して、本館編・同振興協会発行の図録「土佐派絵画資料目録（三）内裏造営粉本」が発行された。目録の編集は本学教授榎原吉郎氏、同非常勤講師岩間香氏と本館学芸員で行い 174点の資料を掲載している。本展示の内容構成はこの目録編集作業から導かれたものである。

展示内容は本学の所蔵する土佐派絵画資料の中から寛政2年（1790）に行われた内裏造営に関わる粉本と安政2年（1855）に行われた内裏造営に関わる粉本であり、白描及び彩色の小下絵や原寸大の画稿など50点を展示した。これまで、一般に公開されていない資料だけに、会期中は美術愛好家ばかりでなく、美術の専門家の来場も少なくなかった。

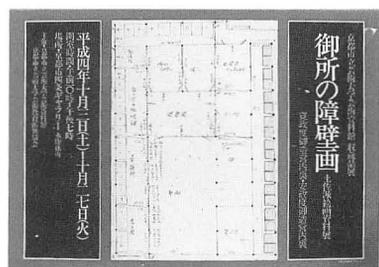
展覧会用に、ポスター（B3、2色刷）・はがき（2色刷）・パンフレット（B5判、4ページ）が印刷された。



ポスター



パンフレット



はがき

## ごあいさつ

京都市立芸術大学は、明治13年（1880）の京都府画学校の開設以来、今日まで多くの芸術家を世に送りだし、創立110有余年の輝かしい歴史を刻んでまいりましたが、昨年4月にはまた、従来の附属図書館から資料部門を独立させ、芸術資料館として新たに発足することができました。芸術資料館は、長い歴史と伝統を誇る本学が収集してきた芸術作品と芸術資料を、本学の研究と教育のために活用するとともに、広く一般にも公開して、社会教育施設として、いささかなりとも尽力してまいりました。

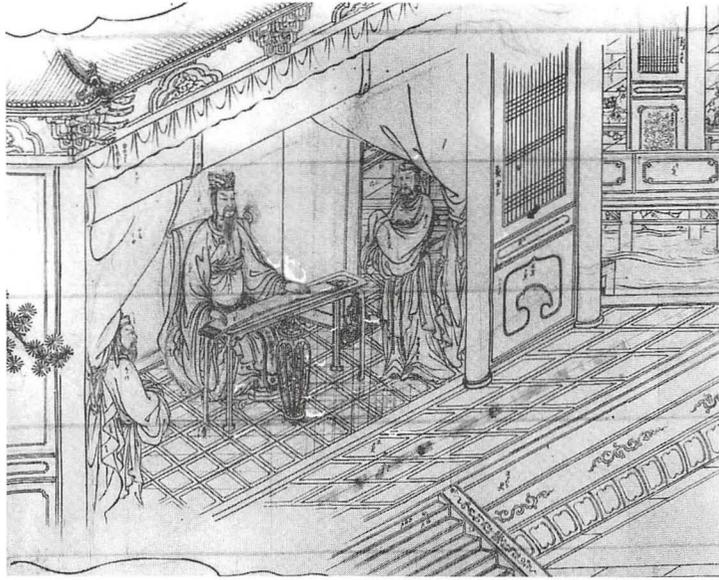
今回の「御所の障壁画」の展示は、本学の芸術教育振興基金による事業のひとつとして開催されるものですが、芸術資料館が収蔵し調査研究をすすめている土佐家旧蔵の膨大な絵画資料のうち、京都御所の内裏障壁画に関係する下絵を選んで構成したものです。土佐派絵画資料の一般公開は、「土佐派肖像粉本一將軍・茶匠・町衆一」、そして、柿本人麿像を中心にした「歌神・歌聖」に続いて、これで三回目になりますが、今回も初めて紹介展示されるものばかりです。学術的にも高く評価され、早くから公開が待ち望まれた貴重な資料でもあります。ご高覧ください。

平成4年10月

京都市立芸術大学芸術資料館  
京都市立芸術大学芸術教育振興協会

## 出品目録

品名(作者)	備考	材質	制作年	法量(mm)	番号
清涼殿名所絵下絵 (土佐光貞・光時・光孚)	清涼殿	紙本淡彩	寛政2年(1790)	303×13025	1
清涼殿障壁画縮図	三宅年國所蔵資料(寛政度造営)	紙本墨画		140×423	2
清涼殿鳥居障子図 (高井豊泉)	三宅年國所蔵資料(寛政度造営)	紙本着彩		280×408	3
清涼殿絵図	三宅年國所蔵資料(寛政度造営)	紙本墨画		410×713	6
唐絵本文之意陶淵明図(土佐光貞)	清涼殿母舎鳥居障子	紙本墨画	寛政2年(1790)	1631×836	9
〃	〃	〃	〃	1625×837	10
昆明池障子南面縮図 (土佐光貞)	清涼殿	紙本淡彩	寛政2年(1790)	278×404	17
昆明池障子北面 嵯峨野小鷹狩図下絵(土佐光貞)	清涼殿	紙本墨画一部 淡彩	寛政2年(1790)	1628×762	19
〃	〃	〃	〃	1623×924	20
〃	〃	〃	〃	1626×842	21
馬形障子下絵	清涼殿	紙本墨画	寛政2年(1790)	940×1181	22
馬形障子下絵	清涼殿	紙本墨画	寛政2年(1790)	972×903	25
益田池図 (土佐光清)	清涼殿萩戸鳥居障子	紙本墨画朱描	安政2年(1855)	1452×837	28
〃	〃	〃	〃	1455×835	29
足柄山図 (土佐光武)	清涼殿御湯殿布障子	紙本墨画	安政2年(1855)	1553×1341	47
〃	〃	〃	〃	1548×1348	48
猫図 (土佐光文)	清涼殿御手水間小障子	紙本墨画	安政2年(1855)	920×685	50
竹雀図 (土佐光文)	清涼殿御手水間小障子	紙本墨画	安政2年(1855)	990×685	51
荒海障子南面縮図 (土佐光清)	清涼殿	紙本墨画	安政2年(1855)	388×615	67
四季花鳥図小下絵 (土佐光清)	御常御殿剣燵間	紙本淡彩	安政2年(1855)	325×3410	69
春夏花鳥図 (土佐光清)	御常御殿剣燵間	紙本墨画朱描	安政2年(1855)	822×387	82
〃	〃	〃	〃	826×389	83
〃	〃	〃	〃	828×392	84
〃	〃	〃	〃	826×390	85



列女傳有虞二妃図(皇后御常御殿)部分

品名(作者)	備考	材質	制作年	法量(mm)	番号
秋冬花鳥図 (土佐光清)	御常御殿剣璽間	紙本墨画朱描	安政2年(1855)	825×395	86
〃	〃	〃	〃	829×390	87
〃	〃	〃	〃	826×390	88
〃	〃	〃	〃	826×389	89
四季花鳥図 (土佐光清)	御常御殿剣璽間	紙本墨画	安政2年(1855)	1601×912	90
〃	〃	〃	〃	1602×903	91
〃	〃	〃	〃	1618×902	92
〃	〃	〃	〃	1603×875	93
〃	〃	〃	〃	1605×885	94
〃	〃	〃	〃	1616×903	95
竹虎図小下絵 (土佐光文)	御常御殿御寝間	紙本淡彩	慶応3年(1867)	425×5238	96
養蚕図 (土佐光文)	参内殿御上段間	紙本墨画朱描	安政2年(1855)	1565×1035	99
〃	〃	〃	〃	1568×1032	100
〃	〃	〃	〃	1564×1034	101
〃	〃	〃	〃	1662×1188	102
〃	〃	〃	〃	1663×1188	103
〃	〃	〃	〃	1665×1193	104
飛香舎鳥居障子小下絵 (土佐光貞・光時)	飛香舎	紙本淡彩	寛政6年(1794)	444×5850	114
列女傳有虞二妃図 (土佐光清)	皇后御常御殿御上段間	紙本墨画朱描	安政2年(1855)	1586×1828	117
〃	〃	〃	〃	1754×870	118
〃	〃	〃	〃	1726×2622	119
〃	〃	〃	〃	1749×865	120
〃	〃	〃	〃	1749×879	122
〃	〃	〃	〃	1717×1161	123
〃	〃	〃	〃	1722×1232	125
〃	〃	〃	〃	1714×1025	126

※番号は土佐派絵画資料目録(三)の資料番号を示す。

※表紙図版は寛政度御造営清涼殿絵図(資料番号6)部分。

土佐派の絵師たちは、克明に粉本を残してきた。現在本学に収蔵されている京都御所関係の粉本は、紫宸殿、清涼殿、御常御殿、参内殿、皇后御常御殿、などの空間を飾った障壁画の実物大の下絵から縮小された小下絵に至るものが含まれ、それぞれの形式も一枚もの、卷子本、冊子本など様々な姿で伝えられている。

土佐派と京都御所との関係を簡単に想起してみても、時代により様々な様相をしている。まず京都御所は、平安京が造営された時期の大内裏の中にあつた皇居から始まり、度重なる火災や争乱により、その敷地の変遷を重ねてきた。また、土佐派も、室町時代の初期に土佐行広から始まる大和絵の伝統を継承した画派であるが、絵師として最高の位〔従四位下〕に付いた土佐光信によって画派として確立したのである。だが、本学には16・7世紀以後の土佐派画人が描き残した粉本が現存しているにすぎず、焦点を近世土佐派に絞らねばならない。

本学の土佐派粉本で京都御所に関するものとしては、18世紀末の寛政度造営に腕を振るった土佐光貞・光時・光孚の手になるものがあり、19世紀中頃の安政度御造営の資料を含み、障壁画関係として約170点の資料が残されているが、御所に現存する障壁画の研究に欠くことのできない資料といえる。

近世以後の京都御所の変遷を概略すると、天下を統一した豊臣秀吉が織田信長にならい、天正18年(1590)に造営した京都御所の様子は勝興寺本『洛中洛外図』屏風によって僅かに知ることができる。これは文禄5年(1596)の大地震による被

害を受けたため、慶長11年(1606)頃から徳川家康が修復造営を始め、一応の完了を見たのが同18年(1613)である。その後、二代將軍・秀忠は娘和子(東福門院)の入内にとまなう女御御殿を元和5年(1619)に建立した。江戸幕府は寛永18年(1641)再度内裏造営に着手し、翌19年には完成させている。その後も度重なる火災により焼失した内裏の造営を次々と進め、承応3年(1654)、寛文2年(1662)、延宝2年(1674)と、17世紀の江戸幕府は七回にわたって作事奉行を勤めた。18世紀に入ると、宝永5年(1708)の大火後、造営された京都御所は80年間維持されたが、しかし、天明8年(1788)の大火で焼失したのを、幕府は老中・松平定信を惣奉行に命じ、根本的に大改造する計画を進めた。定信は裏松固禪の『大内裏図考証』=平安京の大内裏における皇居の原型を考証した研究=をもとに、その造営を始めた。これが寛政度の造営であり、現在眼にすることのできる京都御所の原型が成立したといつてよい。そこには、幕府の権力をもってしても覆いかくすことのできない御用絵師・狩野派の衰退がみられ、彼らにとってかわって、土佐派や京派の絵師たちが活躍する場となっている。

(京都市立芸術大学教授)

### ●ギャラリー講座

□10月16日(金)

「寛政度御造営と清涼殿障壁画」

松尾芳樹(京都市立芸術大学芸術資料館学芸員)

●午後5時30分会場でおこないます。

### 次回予告

京都市四条ギャラリー 36

京都市四条ギャラリー開所3周年記念展

肖像「Portrait」

10月31日(土)～11月30日(月)

ワークショップ

「コピーアート」

平成4年11月14日(土)

午後1時～5時

\*当会場にて参加自由

### 京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条通高倉東入(四美東洋ビル地階)

TEL(075)223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始



## II. 教育普及関係

### A. 収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成4年度総計 18件 36点

作品名	貸出先	展覧会名	会期
島岡恭子－壁掛	作者本人	アーティスト・イン・レジデンス展	92. 9. 27～11. 29
岡本神草－口紅	産経新聞社大阪本社	大正ロマンと名画展	92. 10. 6～10. 18
大野秀嵩－彼岸花蕾	岐阜県美術館	日本の近代美術にみる『花』	92. 10. 2～11. 8
山下摩起－ユウカリノ図	西宮市大谷記念美術館	山下摩起展	93. 1. 15～ 2. 14
土佐派絵画資料千利休像2点	宇治市歴史資料館	宇治人物誌	92. 10. 6～11. 8
堂本印象－世相三題	堂本印象美術館	印象の作品1	92. 6. 2～ 9. 27
田中親美－源氏物語絵巻模本 扇面写経下絵模本	斎宮歴史博物館	王朝文化の美－源氏物語の世界－	92. 10. 13～11. 23
不動立山－冬の夜更 森谷南人子－麗艶 稲垣仲静－豹 沢田石民－御苑内 沢田石民－風景	山口県立美術館	大正日本画－その闇ときらめき	93. 1. 5～ 2. 14
土佐派絵画資料今井宗久像	福岡市博物館	堺と博多－みよがえる黄金の日々－	92. 11. 17～12. 20
土田麦僊－髪	産経新聞社大阪本社	大正ロマンと名画展	92. 10. 6～10. 18
村山槐多－信州風景	日本経済新聞社	情熱の軌跡「夭折の画家たち」	93. 4. 22～ 6. 7
伊東陶山－金地鶴図色絵角皿 伊東陶山－色絵菊唐草高杯 染付オランダ写水注 染付人物図杯 鏤絵染付秋草人物図水注	勸業館運営法人 設立準備室	粟田焼との出会い	93. 3. 3～ 3. 7
川北霞峰－鳥獣人物戯画模本	広島県立歴史博物館	遊び・戯れ・宴－中世の生活文化－	93. 4. 23～ 5. 23
佐藤空鳴－村の細道	愛知県美術館	20世紀愛知の美術	93. 2. 19～ 3. 21
矢延憲司－Nest(for dictators)	北九州市立美術館	2nd 北九州ビエンナーレ；クロノスの仮面	93. 2. 14～ 3. 31
田中親美－伴大納言絵詞模本	斎宮歴史博物館	王朝文化の美－平安京	93. 4. 27～ 6. 13
西垣籌－レントゲン室	姫路市立美術館	日本画・近代の視点 くらしの情景	93. 5. 9～ 6. 6
木村斯光－もだえ 不動立山－美人－冬の夜更 板倉星光－はなび線香 吉川観方－入相告ぐる頃	京都府京都文化博物館	京の美人画展	93. 9. 10～10. 11

## B. 収蔵品学内使用状況

本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計 5件 11点

資料名		目的	貸出先	使用場所
扇面写経下絵模本	3巻	模写	日本画研究室	模写室
狩野元信花鳥図模本	3幅	模写	〃	〃
田村宗立旧蔵粉本	3枚	模写	〃	〃
手描羊皮紙楽譜	1面	講義	音楽学部	講義室
土佐派絵画資料源氏絵画稿	1帖	講義	美術学部	〃

## C. 収蔵品補修状況

今年度補修修理を行った収蔵品は下記のとおりである。

総計 17件 216点

名称	点数	類別	補修内容
田中泰高 「時局ポスター」	1面	図案卒業作品	扁額装
伊吹 弘 「時局ポスター」	1面	図案卒業作品	扁額装
土田麦僊 「髪」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
土屋良夫 「黙」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
大筆兵一郎「枯蓮」	1幅	日本画卒業作品	改装(軸)
ヤマーンタカ(チベット)	1面	参考品	額装
阿弥陀如来座像(チベット)	1面	参考品	額装
今井憲一油彩エスキース	2面	参考品	額装
林司馬絵画資料	5巻	参考品	卷子装
林司馬絵画資料	19枚	参考品	裏打
後藤貞之介絵画資料	2枚	参考品	裏打
後藤貞之介画稿	3枚	参考品	裏打
奥村厚一画稿	10枚	参考品	裏打
土佐派絵画資料	200枚	参考品	裏打

## D. 収蔵品撮影掲載状況

本館収蔵品撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計 18件 37点

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行日
岡本神草「口紅」	日本経済新聞社	日本経済新聞 ウィークエンド日経	1992. 4
上村松篁「立葵」	新集社	現代日本素描全集「上村松篁」	1992. 4
富本憲吉 「赤地金銀彩羊歯模様飾壺」	小学館	「富本憲吉全集」	1992. 4
麻田辨自「馬」・「量」・「樹園」 「比叡対水」・「鳴群」	麻田 浩	「麻田辨自作品集」	1992. 6
竹内鳴鳳「四天王寺扇面法華経」 下絵模写	河出書房新社	「100問100答日本の歴史 原始古代編」	1992. 8
鈴木 治「彌生」	中央公論社	「日本の陶磁・現代編」	1992. 8
森野嘉光「塩釉花器」 森野泰明「青釉花器」	社団法人日展	「日展史第23巻」	1992. 9
岡本神草「口紅」 土佐派絵画資料「柿本人麿像」・「戸嶋永秀像」	朝日新聞社出版局	アサヒグラフ別冊美術特集 「近代日本画に見る本画と下絵Ⅲ」	1992. 9
今井憲一「撮影」「祇園会(三部作)」 「渚」・「断面」・「ガーデン」 「聚落」・「蓮池」・「港」 「山・高原」	京都精華大学	「残像—今井憲一 カタログレゾネ」	1992. 9
土田麦僊「髪」 村上華岳「二月の頃」	新集社	アーティスト・ジャパン第48巻 「土田麦僊」	1992. 9
村上華岳「二月の頃」 入江波光「北野の裏の梅」	新集社	アーティスト・ジャパン第51巻 「村上華岳」	1992. 9
土佐派絵画資料「足利義晴像」	中央公論社	続日本の絵巻第24巻	1992. 11
高林和作「藁塚」	高林和作画集 刊行委員会	「高林和作画集」	1993. 2
来野月乙「遠野抄」	ニューカラー写真印刷	「来野月乙作品集」	1993. 2
染織資料「霞取りに雁と 御所車文様裂」	紫紅社	日本の染織第22巻「辻が花」	1993. 2
土佐派絵画資料「今井宗久像」	世界文化社	月刊誌「The Bigman」5月号	1993. 2
土佐派絵画資料「冬至朔旦図」 「飛鳥井雅章像」	日本美術工芸社	月刊誌「日本美術工芸」 5月号	1993. 3
土田麦僊「髪」 村上華岳「二月の頃」	京都府文化財 保護基金	「京都の文化財地図帳」	1993. 3

注：掲載を要しない研究のため等の撮影は挙げていない

## E. 博物館学実習受入状況

本学博物館学課程の博物館学実習について本施設では下記の者を受入れた。

石井 陽子	伊藤 文	枝光由嘉里	大澤 優理	久保 るみ
正司 綾子	高木 恭子	中関 淳一	西川 陽子	宮崎 祥子
森谷 由佳	和田 教代	安栗 幸代	蝦原 真澄	辻野 陽子
瀧本 吟	西川 陽子	河本佐紀子	井上 佳子	吉田 光江
河合 隆広	檜垣 智子	浅野 公造	高垣 美穂	

以上24名

## F. 特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	1 件
学外特志者	2 件
総計	3 件